



2004年もあとわずか。1月の会報で今年の運勢を次のように記しています。

「今年は甲申五黄土星(きのえさるごおうどせい)の年です。この星は混乱、天変地異などよくない意味もありますが反面、信念、闘志、強力なエネルギー、実行力など力強い星でもあります」振り返ってみれば、確かに異常に多かった台風災害や北海道や新潟の大地震など天変地異の年でした。イラクの人質殺害や小さな子供を殺害する事件、小泉政権も含めて混乱の様相でした。一方で、アテネオリンピックでは闘志あふれるプレー、強力なエネルギーの爆発もありました。皆さまにとってはどんな年だったのでしょうか。

<第114回 ほほえみの会>

新しい方2組、西尾先生、堀越先生を含め11人の参加でした。

5歳女の子、急性リンパ性白血病。幼稚園に通っていたがだるい、気分が悪い、顔色悪く近所の病院で診てもらいこども病院へ。治療を始めて薬の副作用ですい炎になり、現在治療中断中。

3歳男の子、急性リンパ性白血病。母親が下の子を妊娠したことで幼稚園に入園させようとした。持病のアトピーもあり給食にも気をつけなければいけないと血液検査を受けた。そこで偶然病気が発覚した。病室では同じ病気の子がいて治療についても説明をしてくれるので助かっている。

7歳女の子、神経芽細胞腫。足が痛いと言っていたのにすぐ治る。おなかが痛いと言ってもすぐ治る。熱が出てもすぐ下がる。原因がわからないうちにぐったりとして食欲もなくなり痩せてきた。市立病院に2週間入院してようやく病気がわかる。すでに転移をしておりステージは4。固形腫瘍は見つけるのが難しいという。

5歳男の子、神経芽細胞腫。治療が終わって退院、移植をやる予定でいたが抗がん剤の効き目が大きく、今は普通に生活をしている。甲府からこども病院に通ったが今は子供に合わせて清水に引越しをした。

退院後の晩期障害に対するフォローアップ外来についても話題になりました。本来ならば地域の総合病院で見てもらうのが一番いいと思われるが病院間の連携や、中心となってみってくれる医師の存在など問題も多いようです。治癒率が上がった今、今後の課題です。

また、病棟によって雰囲気の違いがあることも話題になりました。入院している患者さんの病気や容態、また看護師さんによっても変わるようです。

最近は治療中でも体調がいい日は外泊をさせる。3日以上の外泊予定の場合は退院の手続きをとっているとのこと。治療中の子供にとっては気分転換にもなり、自宅に帰ることが出来ていい。一方で再入院の手続きが面倒でもある。これは厚生労働省の指導で入院日数をなるべく減らしたいということのようです。

来年は良い年になりますように。良いお年をお迎え下さい。

次回は 1月 9日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>